

# PHD LETTER

## 107

2008.6

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

- 2008年度 事業計画
- 研修生レポート 26期生紹介
- 同じ買うなら、使うなら「北野ファーマーズマーケット」

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげ、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人づくり (Human Development) をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発行：財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄  
編集人：藤野 達也  
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3  
元町アーバンライフ202  
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867  
E mail：phd@mb1.kisweb.ne.jp  
U R L：http://www.kisweb.ne.jp/phd  
定 価：100円  
郵便振替口座：財団法人ピー・エイチ・ディー協会  
01110-6-29688



パプアニューギニア モロベ州 フィンシャーフェン 撮影：FUJINO T.

みんな頭の上に鍋をのつけて  
何してるのかと思ったら、  
浜辺に湧く清水を汲んで  
これから家に戻るところだって。  
海のすぐそばなのに、塩辛い。  
おもしろいね。



### 2008年度 事業計画

## 研修生を支え、研修生から学ぶ

岩村昇先生のネパールでの医療協力の経験を生かし、PHDが提唱されて、この6月で28年目になります。海外研修生を迎えて行われる草の根の人々の交流から「平和と健康を担う人づくり」をアジア・南太平洋の村に、そして日本の各地に広めていきます。

PHDの看板事業は海外研修生を日本に迎えての研修であることには変わりはありません。その実施を支え、またそこで研修生と出会う日本人々も研修生と同様に「平和と健康を担う一人」であることの理解を広め、日々の暮らしの中での「分かち合い」の実践をさらにすすめていきたいと思えます。

### 研修

2008年度は研修事業を国内・国外の両面から改善していくための初年度とし、国内研修事業については指導者や協力者と相談しながら2~3年計画で行います。海外調査・フォローアップについては帰国研修生とも協力しながら、3~5年の視野で取り組みをはじめます。

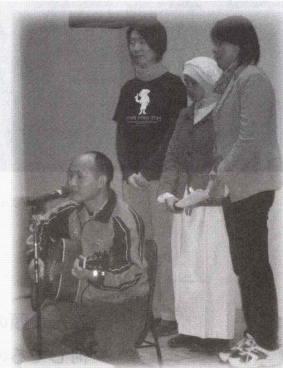
国内事業については、研修生の経験や能力に合わせた細かな対応ができるよう、指導者や協力者にも協力を仰ぎ、過去の研修を見直し、質の向上につなげます。

海外事業については、帰国研修生のフォローアップや活動支援を強化するために、指導者同行の現地訪問回数を増やすなどの改善策をいくつか講じます。



第25期生帰国報告会

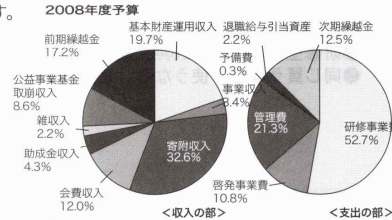
3月8日、こうべまちづくり会館でホストファミリー、研修指導者など支援して下さった方々に1年の研修成果と帰国後の村づくりについて3人の海外研修生と国内研修生が語りました。来日したての頃は、ほとんど話せなかった日本語も上手になり、それぞれの思いを伝えました。ホストファミリーのお父さんお母さんたちのメッセージも温かく、感極まって研修生が涙するシーンもありました。そんな彼らから私たちが多くのことを気付かせてもらったことを思い出しながら、聞きまし



た。チャーユさんのギター伴奏で、研修生全員で歌った森山直太郎の「さくら」は会場の皆さんの心に響きました。日本で学んだこと、感じたことを大切に、村の人に働きかけ、少しずつ頑張っていくって欲しいと思えます。

### 総務・財務

今年12月から公益法人の新制度が施行されます。それにあわせ、組織体制の見直しと変更を実施し、これまで支援して下さった方々、協力団体との関係をより深めること、皆様から支援される運動体をめざし、PHD活動を推進していきます。



### 啓発

啓発事業の各分野において、内容を特色あるものにし、参加者増を図ります。具体的には、他団体、大学との連携を図り情報の交換、イベントの告知を行います。またPHD独自の教材を作り、ワークショップを実施します。国内スタディツアーでは、より身近な地域での問題を考える場とし、継続して関わることのできるものしたいと思います。また海外スタディツアーではPHDならではのあり方、目的に基づき、内容を見直します。以上の点をふまえ、参加し、関わることで、PHD活動を身近に感じてもらい、収入増、会員獲得につなげていきたいと思えます。

2月16日	ネパール市民講座 パネルディスカッション
2月19日	コープこうべレインボースクール西神南
2月28日	国際ソロプチミスト姫路西バザー
3月1日	コープこうべ第三地区「祭」バザー
3月5日	神戸開発教育研究会ワークショップ 「ネパールで考えた」
3月6日	コープこうべレインボースクール山本
3月8日	第25期生帰国報告会
3月9日	カフェスロー大阪「地球市」
3月12日	相生高校講演「する協力、しない協力」
3月16日	コープこうべ宝塚「ふれあいフェスタ」
3月22、23日	JICA兵庫 国際協力体験プログラム
3月25日	コープこうべパート基金運営委員会講義
3月26日	姫路ロータリークラブ卓話
3月27日	国際ソロプチミスト神戸バザー
3月29日	福岡県国際交流協会ちきゅうを知る講座
4月15、22日	立命館大学講義
4月16日	第26期研修生来日
5月14日	加古川老人大学院講義
5月16日	大阪YWCA講座 (全5回)

### 東西南北 問題解決 取組日記

#### 日本の私たちは 傍観者ではない。

PHDのすすめる研修事業の成果がすぐに形となって見えてくることは難しい。時間がかかり、また村に帰った研修生たちの様々な試みも成功が約束されていないわけではない。しかし新しい知識、情報、経験の機会に限りがある研修生の出身地域の状況を見ると、日本での一年は貴重な時間であることとあらためて感じる。本人のためだけではなく地域みんなのための学びであるという研修生の気持ちに、日本で支えて下さる多くの皆さんの善意と熱意が組み合わされて研修事業は実施される。それが広いアジア・南太平洋地域の点であろうとも、意味がある。これまで村に戻った研修生たちの取り組みのようすについては、ご報告をしてきて



村をまわり相談に来る1期生バトさん (左) (ネパール)

いるように、いくつものうれしい活動に結びついている。

岩村ドクターの提唱によってPHDがはじまってから27年を経、この地道な活動が継続して支えられてきたことに對して、あらためて皆さまに感謝を申し上げます。

しかしそこで満足してしまうのではなく、ここまでやってきて思うのは、たしかに支援地域の変化にながしかの協力はできてはいるものの、大きく世界を見たときに、戦争はなくなり、貧困は解消されず、環境は悪化していることだ。研修生とその地域の村人の前向きな努力の姿勢を知るとき、日本に暮す私たちが、彼らを支えるだけでなく、彼らが毎日の暮らしの改善に取り組むのと同様の姿勢を、日々日本の中でどれだけ実践できているかを考えてしまう。

いわゆる経済大国、先進国と呼ばれるところに暮らしている人たちの地球に対する負荷は、そうではない地域に暮らす人たちに較べて何倍も高い。食糧、エネルギーをはじめ様々なものの消費量は圧倒的に多い。こうして物質的な豊かさや便利さを享受しているが、それに見合うだけの役割、責任を地球の上で果たせているのだろうか。無意識に消費するだけであるかといえばそうではなく、たくさんのメディアに囲まれ、多くの情報を得て、均衡を欠いた関係があることを知っている。ならば、もっと何かができないものか、しなければいけないのではないかと思う。PHDの掲げる「平和と健康を担う人づくり」はこれまでも申し上げてきているように、私たち日本に暮す人たちにも向けられた岩村ドクターからの行動への呼びかけであることを、あらためてお伝えしたい。

様々な分野でグローバル化がすすみ、国境で区切られて済むことはなくなりました。社会問題やその解決のためにとりくみ国内、国外の区別をしてもあまり意味をなさなくなってきた。これまでもいろいろな事例でご紹介しているが、研修生たちの村と私たちの生活も、多くのつながりをもつようになってきている。

岩村ドクターは、目の前の困ったことに対症的にあたるだけでなく、その原因からの解決とそれを当事者がとりくむことの必要性をネパールの現場から学んだ。その経験を土台にPHDは生まれた。様々な問題が起こる原因を考え、それにかかわる人が解決に向けてとりくむこと。特別な専門家だけが行うのではなく、今の社会を構成している一人一人ができることから行動をおこすこと。この基本をもう一度確認したい。

#### 良くも悪くもつながる世界

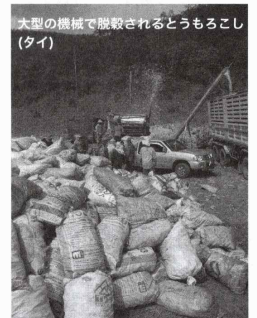
学校などでお話をさせてもらうことがある。そのときに心がけていることは、皆さんそれぞれが国際的な関係の中にある問題の傍観者にとどまるのではなく、当事者であることに気づいてもらうということだ。

3月の終わりにJICA兵庫センターの一泊二日の行事のお手伝いをして、高校生、大学生の皆さんと環境について考えた。いきなり地球規模の大きなテ

ーマをとりあげるのではなく、神戸市の施設を訪ね、日々の生活からでる大量のゴミの焼却処理をまず見学した。その帰り道、スーパーに立ち寄り各自昼食を調達した。部屋に戻って食べ終えたところで、その買い物をしたときにもらったレジ袋を含め、どれだけのゴミも自分が発生させてしまったかをふりかえってみた。その上で再度、スーパーおよびその近くの商業施設にでかけ、ゴミの発生、エネルギーの消費の様子、また環境への配慮がなされているかを調べた。地球温暖化を招く二酸化炭素の発生は、遠いところのどれかのせいで起こるのではない、私たちの日々の生活にその原因の一端があることをこうして感じてもらった。

2日目にはこの4月に来日した新研修生スラデさんの村の様子をスライドで紹介した。そこではここ数年、山を切り開いてとうもろこしを栽培するようになった。それが雨期に表土流失を生み、川を汚し、土砂崩れを起こりやすくしてしまっただけでなく、とうもろこしは村人の口に入るのではなく、出荷され、家畜の飼料になるという。そして鶏や豚の肉となり町の消費者、ひよっとすると輸出され外国の消費者に届けられる。村の環境破壊と私たちの食卓がつながってしまう。

関係ないようで、実はつながっている。こういった関係を知ることから、



何をしたらいいのかを考えることもPHDの活動の大切な狙いであり、研修生はそれを伝えてくれる存在でもあるのだ。

前号でふれた飛行機の食事についてくる各種小袋はやはり捨ててしまうと会社から返答があった。やっぱりもったいない。皆さん、できればお持ち帰りを。

総主事代行 藤野達也



## モレチャ スラデ (45歳・タイ)

今期のタイからの研修生はちょっと今までとは経歴が違います。これまで北タイからはTKBC(タイ カレン バプティスト会議)を通して村人との話し合いの下、研修生を招いてきましたが、今回はそのTKBCから直接推薦を受けたスラデさんを招くことになりました。スラデさんはこれまでの研修生の村とは違い、チェンマイ県のホイボン(Huai Bong)という、メーチェンから49kmほど北に上がったところにある村の出身です。いくつかの団体が開発や教育の仕事に関わってきました。現在は村で学生寮と幼稚園の運営、村の若者に対



山の村をまわるスラデさん

象にしたトレーニングを実施しています。最近では小さな協同組合も始めました。このように、地域で草の根の人々をまとめる役割を担っていることから、日本では協同組合や幼児教育施設の運営について学んだり、さらに、環境保全の視点から有機農業を学ぶ予定をしています。

## ポーポーハン (25歳・ビルマ)

これまで研修生を招へいしてきたタダインシェ村やイエボ村はひとまず一段落し、今年度はマンダレー市から北に車で約1時間のシンプジー村から新たに研修生を招きました。ポーポーハンさんは村でポーポーと呼ばれており、お姉さん3人とお兄さん1人の5人兄弟です。ポーポーさんは地元の大学で英語を勉強しながら農業にも携わっています。実家の畑では豆やとうもろこし、トマト、マンゴーなどの栽培と牛を飼育しています。少し離れた親戚の家に田植えや米の収穫を泊り込みで手伝いに行くこともあります。

日本では有機農業を中心に、協同組合や保健衛生についても勉強します。今期の研修生では一番若手で一見物静かですが、日本の生活にも徐々に慣れ口数も増え、時にはビルマ語で(!?)皆に話しかけています。来日前の以前の研修生からの日本語の指導がわずか



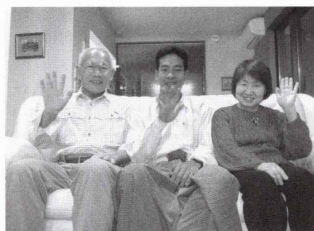
牛で畑を耕すポーポーハンさん

数日間のみとのことで心配されましたが、神戸YMCAでの日本語研修で急成長。暗記力と集中力は目を見張るものがあります。

ゴールデンウィークはホームステイ先でだんじり祭りに参加し日本の伝統文化にも触れました。

## 滞在家庭 中林 清さん・美知代さん (神戸市東灘区)

今回、兵庫県国際交流協会を通じてポーポーハンさんを受け入れていただ



きました。来日直後の言葉が通じない時期でも、ポーポーさんは勘の良さを活かして状況を判断します。また、英語による筆談でコミュニケーションも特に問題なし。ホームステイ開始当初は緊張気味だったポーポーさんも生活に慣れ、食事の後片付けなどを率先して行い、家族の一員として過ごしています。

# 26期生研修生レポート

## 滞在家中

### 梶原 正徳さん・早苗さん (神戸市東灘区)

PHD研修生の受け入れは3年ぶりの梶原さん一家。これまでたくさんの研修生がお世話になってきましたが、梶原さんご夫妻も自分たちより年上の研修生は初めての経験です。

ホームステイ開始日、梶原さん宅でのスラデさんの愛称は、カレン語の名前であるスディに決定。

日本の生活習慣にも徐々に慣れつつ

あるスラデさん。しかし、お風呂から上がるのをみんなで待っていたはずが、スラデさんは既にベッドの中ということもありました。



## ペリスマン (26歳・インドネシア)

昨年度に続きシランジャイ村から2人目の研修生。村での愛称はペリスです。ペリスさんは4人兄弟の次男で、もとは隣のタバ村の出身ですが、結婚し今は一家の大黒柱としてシランジャイ村でお連れ合いさんと2歳のお子さんと一緒に暮らしています。村では米やバナナ、スパイスのカルダモン、唐辛子などを



ペリスマンさんの畑の様子

栽培し、また、牛や鶏も飼育しています。時には大工としての仕事もあります。

ペリスさんは2006年の夏も選考に応募していましたが惜しくも漏れてしまい、再チャレンジした2007年夏に選ばれました。

日本では主に米や野菜の有機栽培について学びながら、協同組合や保健衛生についても学ぶ予定です。また、村での牛の飼育の向上につながるよう、

肉牛の飼育についても学べる研修も希望しています。

3人の中では一番小柄なペリスさんですが、とっても活発で好奇心旺盛です。ゴールデンウィークはホームステイ宅で犬の散歩や庭の手入れを手伝ったり



と、しばらく机上の日本語の勉強から離れてのんびりリラックスしました。

## 滞在家中

### 光田 弘さん・和子さん(神戸市西区)

PHD研修生の受け入れは3年ぶり。しかし、英語を話せない研修生の受け入れは初めてです。最初は少し不安のあった言葉の問題も、ペリスさんが日本の生活に慣れるにつれ、なくなってきました。ペリスさんはこれまでの研修生が苦手だった酢の物なども食べ、ご飯もお茶碗に山盛り2杯と日本の食事にすっかり慣れ、いつも食欲旺盛です。平日の朝食はペリスさんのリクエストでパンからご飯に変更しました。

## フィリピン地域組織化研修旅行報告

### 「みんなを巻き込むこと、大切だけど難しい」



GBP Bantug. 今はまだ準備段階。

なことです。研修生3人にとって、日本で学んだことをどうすれば村の人にもうまく伝えられるのかを考える9日間のフィリピン滞在でした。

### ハイディさん(04年度)

昨年同様、研修プログラムの調整、通訳のお世話をしてくれました。6ヶ月の契約でSAFRUDIの地域担当となり、地域の人々と協力して村の改善に努めています。飼っていた豚は、餌が値上がりし、餌代がかさむので2頭のうちの1頭を売る予定。

### ロナルドさん(05年度)

ハイディさんと共にフィリピン研修の全日程のお世話をしてくれました。NGO「マシバグ」での仕事も忙しいようです。家の庭に鶏舎を建て、鶏10羽を飼育しており、今後新しく大きな鶏舎に作り変える予定。庭では堆肥を作り、山の畑でタロイモを栽培中

です。新しく立ち上がったところも含め3つのGBP見学、海外からの支援でできた幼稚園訪問、玉ねぎ組合訪問、保健センター、農業大学見学などを行いました。その中で子どもの栄養、保健衛生など依然問題も多いように感じました。また行政側の否応なしの道路建設や海岸の埋め立てなど、国や地方行政と地域住民の間に意識の隔たりがあるように思いました。

研修全般を通してヘルマさんは、「栄養の活動はみんなよく頑張っています。でも農業の活動があまり見えない。みんな協力していますか?私の村でも協力しようと思わない人もいます。難しいです」。

漁業組合の方から、政府とあまりうまくいっていないという話を聞いた後にティダさんは、「やりたいことをやっていくのは1人では無理です。みんなで協力すること。それから村長と政府の関係も大切」。

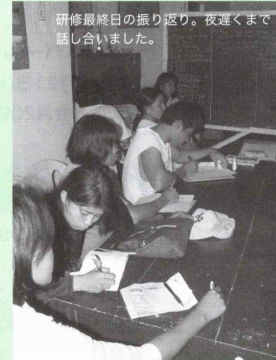
村の農業の様子を見てチャーユさんは「有機農業はおもしろいけれど、大変です。たくさんの人が協力してやっています」と、それぞれに感想を話してくれました。村にとって長期的にめざすべきことだと思っても、人はそれぞれ環境も違い「今」を生きたらなければいけない。人を巻き込む、たくさんの人と一緒にやっていく、グループを立ち上げることは村に帰って、村作りをする上で必要

### エディさん(99年度)

4つの農業グループに関わっています。茄子、しし唐を栽培しており、今後南瓜も植える予定です。山の畑にはバナナとアボガドを栽培しています。グループで堆肥を作り、それを町で売ることも計画しています。

### アンディさん(03年度)

4月からバラヤンシティにあるNGO「サリヤヤ」の事務所を農業のコンサルタントとして働いています。日本で学んだ合鴨農法や組合、有機肥料の作り方が役立っているようです。



研修最終日の振り返り。夜遅くまで話し合いました。



# 同じ買うなら、使うなら！

No.11 北野ファーマーズマーケット

神戸の中心地、三宮から北へしばらく行ったところに北野といわれるエリアがあります。そこに最近、PHDの研修生の指導農家も出店するというファーマーズマーケット「北野マルシェ」があると聞き、でかけてみました。北野坂に面したビルの1階を提供していただける菊地由紘さんは有機野菜を売りたいけれど売り場がないという消費者の声や、北野の活性化、子どもに安全な食べ物を提供したいとの思いから、有機農家に声を掛けました。3年前に始まり、月1回第3土曜に数人の生産者



今年も研修生の村を訪れるスタディツアーを実施します。今年新しい企画としてビルマ・スタディツアーでは事前の勉強会から、村での生活調査を一部担当していただく予定です。

また2年前に水俣で実施した国内スタディツアー。2回目として今年「国内問題を考える勉強会in釜ヶ崎」を行います。

### 第14回ネパール・スタディツアー

日程 7月21日(月)深夜～31日(木)早朝  
参加費 会員209,000円 一般214,000円

### 第22回インドネシア・スタディツアー

日程 8月22日(金)～31日(日)  
参加費 会員199,000円 一般204,000円

### 第10回ビルマ・スタディツアー

日程 9月4日(木)～12日(金)早朝  
参加費 会員203,000円 一般208,000円

が集まり季節の野菜が並びます。当日出店されていた兵庫県中町の岡野圭佑さんはサラリーマンからの転身ですが、農薬の害を知り、また奥さんがアトピーだったこともあり、有機農業を始めました。

ここ最近の餃子話題から、話は世界に広がり、世界規模で食糧増産を図るための新しい技術、方法に有機農業の考え方がなく、量や効率だけですと、その害が自らにかえてきてしまうのではないかと話されました。それを伺い、日本に輸入される蜂蜜に抗生物質が含まれているのは、生産量を上げるために日本が技術指導をしたという話を思い出しました。

自分の口に入るものの安全のために有機農産物を手に入れるだけでなく、岡野さんとお話をする中で、その背景のいくつかを知りました。どうして自給率が低いのか、それは日本の農業の担い手が少ないこと、政府もそこを重要視していないこと、町に住む人たちが食べるものがどう作られているのかということに関心が低いこと、そういう日本の農業を取り巻く現状に行き着くのではないかと思います。

最近では有機野菜は町のスーパーなどで、以前に較べて手に入りやすくな



りましたが、その背景を知るまでには至りません。研修指導者である丹波市の橋本慎司さんも出店されています。土曜日の朝、ファーマーズマーケットに出掛け、農家の方と話をすれば、その先に繋がっている日本の農業のことを少しでも考える時間が持てるかもしれません。是非のぞいてみてください。

毎月第3土曜日 9:30～12:00  
場所：北野坂にあるドゥマンビル1F黄色のテント下  
(神戸市中央区山本通1-7-11)

### お問い合わせ先

グリーン・グロウス  
・メロディファーム事業部  
兵庫県神戸市中央区山本通1-7-11  
ドゥマンビル3F  
TEL.078-291-7836  
FAX.078-291-7837

# PHDの夏のスタディツアー

3月に25期生の共通研修として1泊2日で行った釜ヶ崎研修。炊き出しの配食、夜回りに参加しました。研修生は日本の違った側面を知り、日本に住む私たちは日本に住んでいるが知らなかったことの多さに驚きました。

経済発展の陰で誰かがしなければならない仕事をしている人がいる。路上で誰にも看取られず亡く

なっていく人がいる。研修の中で釜ヶ崎を案内して下さったシスター・マリアは「釜ヶ崎が抱える問題は貧困問題ではなく、労働問題です」と言われました。この勉強会を通して何を感じるのか、「共に生きていくこと」を身近なところで見つめる勉強会です。

### 国内問題を考える勉強会in釜ヶ崎

日程 7月25日(金)夜～27日(日)正午  
参加費 5,000円(現地集合、現地解散)  
7月12日(土) 11:00～ 事前説明会

7月25日(金) 夜現地集合  
7月26日(土) 炊き出し準備・配食  
町を回り釜ヶ崎の説明を聞く  
夜回り参加  
7月27日(日) ふるさとの家  
分かち合い&振り返り



カレンの草木染めの布を担当し、1年が経った。村に注文し、日本各地のお店に委託販売

もお願いしているが、なかなか思うように売れていかない。お店で共通して言われることは「コースターとランチオンマットは売りにくい」ということ。日本の生活に浸透してないせいだという。だからもう少し手を入れた製品にして売りたいという思いがある。日本でサンプルを作って、それを村のお母さんたちに作ってもらうこともはじめています。反物の仕入れから始まり、サイズをいろいろにしたりと、試行錯



5月11日「いのちめぐる」バザー (大阪・高津宮)

タイ・カレンの草木染手織布、いつでもココで買えます！

フェアトレードショップ ゆう 大阪市中央区大手前1-3-49 TEL: 078-734-3633  
みみずく舎 神戸市中央区元町通6-7-9 秋毎ビル1階 TEL: 078-361-3329  
リエゾン 神戸市東灘区岡本5-2-4 TEL: 078-431-2410  
NPO法人 三次おやこ劇場 KADOKA 三次市十日市中3-1-27 TEL: 0824-63-1745  
ステップハウス 高砂市松陽4丁目738番地 TEL: 079-448-7172  
コットン古都夢 岡山市出石町1-8-6 TEL: 086-225-4663  
Cafe Slow Osaka 大阪市淀川区十三元今里2-5-17 TEL: 06-7503-7392

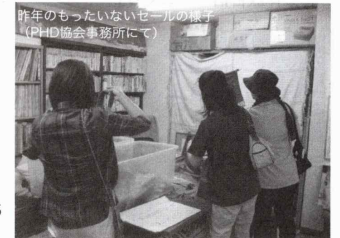
### 今後のバザーの予定

#### もったいないセール

「事務所に眠らせておくのもったいない」ということで、皆さまにお求めやすい価格でご提供いたします。  
日時 6月29日(日)～7月6日(日)  
平日11:00-19:00  
土日祝10:00-18:00  
場所 みみずく舎  
(神戸市中央区元町通6-7-9 秋毎ビル1階)

#### ユースプラザKOBE・EASTバザー

日時 7月19日(土) 11:00～16:00  
場所 御影クラッセ  
(神戸市東灘区御影中町3-2-1 御影クラッセ4F)



昨年のもったいないセールの様子 (PHD協会事務所にて)

### PHDのボランティア ～使用済み切手の収集活動～

PHD協会ではボランティア活動の一つとして、使用済み切手(以下、切手)の収集活動と呼びかけています。この収集活動は、PHD運動提唱者である故・岩村昇医師がネパールで医療協力活動を行っていた時代、その派遣元NGOの活動資金を得るために、元手がかからずに資金集めができることに注

目した大阪の医師によって始められました。

PHD協会では、切手を取り扱っている業者を通して換金し、活動資金の一つとしています。今回、収集活動を行う際のポイントなどをあらためてご説明したいと思います。

- 剥がさずに、切手の周囲を5～10mm残して切り取ってください。\*1
- 切り取る際に、損傷等が入らないようにするためです。損傷等が入ってしまったものは外してください。\*2 (5mm以下でも、損傷等がなければOKです。)
- 複数枚の場合は、複数枚ごとに切り取って下さい。\*3
- 切手の種類はこだわりません。記念切手だけでなく、通常切手など何でもOKです。
- 消印は残さなくてOKです。
- 枚数を数える必要はありません。
- 日本の切手と外国の切手とに分けて送って下さい。\*4
- また、剥がしてしまった切手がある場合は、切り取った切手とは別にして、こちら日本と外国とに分けて送って下さい。



# PHD NEWS

## ◆会費・ご寄附寄託状況

2008年 2月 92件	¥1,307,173
3月 100件	¥1,276,666
4月 38件	¥748,814
230件	¥3,332,653

以上の通り、多くの方々よりご浄財をお寄せいただきました。心より感謝申し上げます。新しい年度を迎え、気持ちを引き締め、引き続き皆様より、会費ならびにご寄附のご支援を賜りますよう努めてまいります。

## ◆農林業プログラム

### 「林業体験合宿 下草刈り」



環境問題がますます深刻化する中、7月には北海道でG8サミットが開かれます。これを機にもう一度、私たちも一人一人に出来る環境保護への取り組みを考えてみませんか？ 篠山の山林を通して見る世界。いろんなことが見えるはず。

#### スケジュール (予定)

8/2(土)	8/3(日)
14:30 集合	8:00~ 下草刈り
15:00~ 勉強会	14:30頃 解散
18:00~ 夕食	
21:00~ 懇親会	

日程 8月2日~3日

場所 兵庫県篠山市大山

費用 一般6,000円 学生5,000円

(勉強会の費用、宿泊、3食、保険を含む)

## ◆出前講座します！

職員、ボランティアがお伺いし、セミナー、ワークショップ、お話をします。国際協力、ボランティア活動、NGO/NPO、開発教育、フェアトレードなどご希望のテーマをお聞かせいただき、ご相談ください。

## ◆国内研修生募集

国内でも平和と健康を担う人材を育成しようと95年より実施している国内研修生制度。

募集要項をお送り致しますのでお問い合わせ下さい。

内容：PHDの事業を通じた実施研修

- 1) 海外研修生の研修に同行し、学ぶ
- 2) 国際理解・開発教育等国内に向けた啓発活動
- 3) 公益法人における組織運営

対象：日本国内居住者(日本語で研修を行います)、将来、開発協力・教育・福祉等の分野で働くことを志し、当事務所に通える方。

研修日程：10月より6ヶ月間 (週3~5日)

1月に国内、3月にフィリピンへの研修旅行あり。

時間：原則午前9時~午後6時

支給経費：研修手当及び交通費

選考：書類審査後、筆記・面接  
(9月上旬を予定)

募集締切り：8月15日 (金) 必着

## ○月×日のPHD協会

職員 佐々木 スラデさんの滞在家庭のお父さんから六甲山登山、六甲アイランドでスケボーに誘われる。その後は近所の王将で餃子をたらふくの計画。

職員 三輪 通勤時間を短縮し、睡眠時間を増やすためにお引っ越し。これで目標の10時半就寝、6時半起床を確保する。赤ちゃんかお年寄りなみ。

職員 川原 二重アゴの指摘をうけ、間食をやめ、腹筋運動を行ってるそう。でも外に出る仕事の前には歩くから補わねばと甘い物をこぞと口に。

職員 高垣 5月の連休はエコロジー&エコノミーを掲げ、家でゆっくり。でかけても近所の地車のお祭り見物くらい。世界の環境に貢献する。

職員 藤野 今年の健康診断から腹囲測定が加わりメタボチェック。1センチ差でひっかかる。ちょっとお腹をへこませれば大丈夫だったのに。

(アルコールの効きが悪い順)

## 編・集・後・記

陽光ふりそそぐ5月、我々の耳に飛び込んできたのは、「中国四川大地震」の悲報だ。あの痛ましい「阪神淡路大震災」の30倍のエネルギーという。日に日に激増する被害状況・被災者数。神戸に住む者だけにその悲惨さ、やり場のない怒りが実感として伝わってくる。

でももっと言葉を失うものが「ミャンマー(ビルマ)・サイクロン災害」だ。国内事情がいま一つはっきりしないだけに、より不気味だ。その悲惨さは想像を絶しているのだろう。どんな手だてを我々は持ち合わせているか、苛立ちさえ覚える。

しかし災害から立ち上がるのも結局は「人」、被災者自身なのだ。人づくりを掲げるPHDが神戸にあるのもなにかの因縁。今回の研修生にこの神戸が災害から、かくも見事に立ち直ったさまを是非学んでいってほしい。ポーポーハン君のひたむきさに救われる思いがする。

(ボランティアS)

制作協力：菅原宗晋 増本一朗 坂井時和  
松本「顧問」直樹 カニ味噌

—再生紙を使用しています。

## アンケートにご協力ください！

1994年、2000年とアンケートにご協力いただきました。それから8年、皆さんの会報への思いをお聞きたいと思ひます。存在感のある会報を目指し、今後も会報作りに取り組んでいきます。是非皆さんの声をお聞かせください。

また次号から「PHDにもの申す！」(仮題)新企画を計画中。読者を巻き込んだこの企画。PHDへの熱い想い、会報を読んだ感想、研修生との交流を通じて感じたことなどご意見をお寄せ下さい。300字以内でメール、FAXまたは郵送にてお送りください。

